

研究科長挨拶

大学院教育学研究科長

市川 伸一

本センターは、「学校教育の高度化」という実践的な目的のために、学校現場、あるいは、教育行政や他の研究機関との緊密な連携・協力関係を築きつつ研究をすすめるセンターとして2006年（平成18年）に設置されました。大学院の学校教育高度化専攻の設置とは深い関わりがあり、本研究科が学校教育実践と連携しながら研究をすすめていくという姿勢の表れともいえるものです。

それ以来、学校教育の高度化というテーマを核として、研究行事の主催・後援、若手研究者の支援、大型研究プロジェクトの実施という3つの大きな活動を行ってきました。そのいずれもが、充実・発展しつつあるのは、研究科長としてもたいへんうれしいことです。

とくに、最近特筆すべきことは、大型研究プロジェクトの推進でした。平成23年度から、小玉重夫センター長を研究代表者とする科学研究費補助金 基盤研究（A）として「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」がスタートしました。これは、本研究科の教員24名が参加する大きなプロジェクトで、附属中等教育学校をはじめいろいろな学校と連携しながら、次の学習指導要領の改訂に向けて、新たな提言をしていくことを目標としています。

その中間発表的な意味合いもあり、昨年はシンポジウムを開催しましたが、学校教員や教育行政関係者の方々が多く参加され、かなりの注目を集めました。参加された方々の関心は、もちろん、次期学習指導要領の改訂の方向ということにあるわけですが、東京大学教育学研究科がこうした具体的な目標を掲げて、しかも授業実践を通して研究するようになったということに対する驚きの声が聞かれました。

こうした実践的な研究を進めるにあたっては、学校、行政、地域などさまざまな方面との連携、協力が不可欠です。今後も、本センターの研究活動をご理解、ご支援いただき、私たちも、それに応えられるような研究成果を生み出していきたいと存じております。